

ブローザホーン *Blow the Horn*

牡 鹿毛 2019.5.10生
北海道新ひだか町 岡田スタッド生産
馬主・岡田牧雄氏 美浦・中野栄治厩舎
馬名意味・その角笛を吹け

アサートインUSA系 F2-I		
エピファネイア 鹿毛 2010	シンボリクリスエスUSA 黒鹿毛 1999	Kris S. Tee Kay
	シーザリオ 青毛 2002	スペシャルウィーク キロフプリミエールGB
オートクレール 栗毛 2011	デュランダル 栗毛 1999	サンデーサイレンスUSA サワヤカプリンセス
	ジョイアサートイン 栗毛 1997	フォーティナイナーUSA
		アサートインUSA

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA M3×S4
Hail to Reason S5×M5 Northern Dancer S5×M5

INTERVIEW

岡田牧雄代表(岡田スタッド)

嬉しい勝利でした

私は能力の高い馬にしか夜間放牧をしないのですが、この馬にも夜間放牧を通してさらなる成長を促してきました。大切に管理していただいた中野調教師の引退前に重賞を勝つことができてよかったと思いますし、予想紙では重い印がついていなかったこの馬を1番人気に支持してくれた日本の競馬ファンは、本当によく馬を見ていると分かったことも嬉しい勝利でした。

N.Inaba



2歳11月にデビューした後、未勝利で長い足踏みを続けた本馬だが、9戦目に初勝利を挙げてからはトントン拍子に出世し、昨年の春に3勝クラスを卒業。オープン入り後も函館記念3着札幌日経オープン1着と順調に実績を重ねた。続く京都大賞典はレース中に心房細動を発症して競走を中止、有馬記念は賞金不足で除外と不運が重なったものの、態勢を立て直して臨んだ5歳の始動戦で新星誕生を告げる「ブローザホーン」を高らかに吹き鳴らした。

4コーナー奥の発走地点から、ともに手綱を押して飛び出したリビアングラスとディアステイマの主導権争いは、1コーナーで先手を奪い切った後者に軍配。とはいえ序盤の競り合いが影響

父エピファネイア

北海道安平町 ノーザンファーム生産 詳細はP.6参照

母オートクレール

北海道日高町 出口牧場生産 中央49戦4勝(紅葉S・立待岬特別)、地方1戦0勝

ブローザホーン 本馬(19 牡父エピファネイア)中央18戦6勝(日経新春杯^{GⅡ}、札幌日経オープン・L、烏丸S、潮来特別、函館記念^{GⅢ}3着)獲得総賞金156,413,000円
(21 牝父ブリックスアンドモルタルUSA)
(22 牝父リオンディーズ)
(23 牝父ボエティックフレアIRE)

祖母ジョイアサートイン

北海道門別町 出口牧場生産 中央3勝、地方0勝。15年死亡
ボストンアサートイン(04 牡父ボストンハーバーUSA)中央1勝
ジョイフルハーバー(05 牡父ボストンハーバーUSA)中央1勝、地方0勝
スピードリバイバル(09 牡父デュランダル)中央0勝、地方11勝
オートクレール(11 前出)
デザートスネーク(14 驕父ブラックタイド)中央5勝(内房S、鍋山特別、ペテルギウスS・L3着)、地方2勝

曾祖母アサートインUSA

北米1勝。90年輸入、98年死亡
キープタブス Keep Tabs(90 牝父Hagley)不出走、ダリエル Darielle(ミゲルフォートマゴット賞・ペルー^{G3}3着)の母
ジョーヤマト(93 牡父シンボリドルフ)中央5勝(オリオンS、御嶽特別、ダイヤモンドS^{GⅢ}2着、大阪・ハンプルクC^{Op}3着)、地方1勝
ジョイアサートイン(97 前出)

四代母オベア Obeah

北米11勝(デラウェアH2回、フィレンツェH、ヴァインランドH、ベルデイルムS2着、ダイアナH2着、スタイミーH2着、フィレンツェH2着、フリゼットS3着、レディーズH3着)、ゴーフォーワード Go for Wand(マザーグースS・米^{G1}、アシュランドS・米^{G1}、ベルデイルムS・米^{G1}、アラバマS・米^{G1}、テストS・米^{G1}、BCジュベナイルフィリーズ・米^{G1}、マスキットS・米^{G1}、ボーモントS・米^{G3}、ケンタッキーオークス・米^{G1}2着、米2歳牝馬チャンピオン)、ダンススベール Dance Spell(ジェロームH・米^{G2}、サラナクS・米^{G2}、ウッドワードH・米^{G1}2着)、ディスコラマ Discorama(ガゼルH・米^{G2})の母

昨年の不運を吹き飛ばす鮮やかな勝利

4頭の4歳馬と2頭の5歳馬がひと桁の単勝オッズを記録。上位拮抗の混戦ムードに包まれた日経新春杯は、ダービーの3着馬ハーツコンチエルト、GⅡ2勝(京都新聞杯、神戸新聞杯)のサトノグランツをはじめる4歳勢と、重賞初制覇に挑む5歳馬の激突がひとつの焦点となった。結果は4歳勢を抑え、僅差で1番人気に支持された5歳馬ブローザホーンが快勝。昨秋の「無念」を見事に晴らした。

3コーナーの坂の下りに差し掛かり、ハーツコンチエルトが先に仕掛けると、サトノグランツも応戦。菅原騎手も火花を散らす2頭の背後に忍び寄って4コーナーを回る。迎えた直線では、失速したディアステイマを呑み込んだ4歳両馬に、馬場の真ん中へ持ち出されたブローザホーン、内から追い込んだサヴォーナが襲い掛かる形勢に。なかでも一枚上の末脚を発揮したブローザホーンが4頭横一列の争いから抜け出して勝利を飾った。

2歳11月にデビューした後、未勝利で長い足踏みを続けた本馬だが、9戦目に初勝利を挙げてからはトントン拍子に出世し、昨年の春に3勝クラスを卒業。オープン入り後も函館記念3着札幌日経オープン1着と順調に実績を重ねた。続く京都大賞典はレース中に心房細動を発症して競走を中止、有馬記念は賞金不足で除外と不運が重なったものの、態勢を立て直して臨んだ5歳の始動戦で新星誕生を告げる「ブローザホーン」を高らかに吹き鳴らした。